

3.第4回「釧路川流域委員会」での意見に対する検討方針

第4回流域委員会における各委員の意見等の検討方針

区分	各委員の意見等	検討方針
<p>現地視察結果について</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 弟子屈市街地のコンクリート三面張りの低水護岸は、当時、治水のために必要な工法であった。親水性の構造にするには、何か抜本的な対策をしなければ安全性が保てないように思われる。 • 弟子屈市街地の鑑別川合流部付近の河床低下は、色々な場所や構造物等に影響を及ぼす恐れがある。なるべく自然のままが良いが、どうしても人間の手を入れる必要があるところはきちんと整備すべきである。 • 川の縁に樹木が少ないので、片側ぐらゐは除草等の管理をせずに自然林にしたり、大木があっても良いのではないか。 • 茅沼の直線河道はあのままでも景観的にはきれいなので、蛇行復元するために埋めてしまわない方が良いと思う。直線化しているところは川幅が広いので、自然の流れの中で蛇行を作っていけないのか。 • 釧路川のカヌーは自然の雰囲気の中で楽しんでもらいたいので、PRのし過ぎと集まり過ぎは良くないと思う。また、道路整備の進捗により車が釧路川や釧路湿原に接近しやすくなることによる影響を危惧しており、いかに現在の自然環境を保全していくのか熟慮が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> • 左記の意見に配慮し、河川整備計画を検討していく。
	<ul style="list-style-type: none"> • 釧路川は一般住民にとってイベント会場として利用されているが、親水空間として愛着を持って利用されてはいないと思われる。カヌーポートや公園等のハード面を整備しても利用するソフト面が充実していないと使われないので、住民から親しまれる川としての仕掛けや工夫が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> • 釧路川の利用の促進については、流域住民に分かりやすい情報提供手段等について、今後、検討していく。
	<ul style="list-style-type: none"> • 川の流域管理は川だけでなく、集水域全体の管理から考える必要がある。 • 上流部の森林保護と植林が必要であり、釧路川の上流部の開発は下流部に影響を与えるので、細心の注意を払って行う必要がある。 • 釧路川流域の各町村で家畜糞尿等の対策に取り組んでいるので、釧路湿原に流入する汚濁負荷は減少していくと思われる。 • 酪農の家畜糞尿や生活雑排水などは下流部で取水している水道水に影響が出るので何らかの対策を考えていかなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> • 集水域全体の管理については、関係機関とも連携が図れるよう検討していきたい。

区分	各委員の意見等	検討方針
グランドデザインについて	<ul style="list-style-type: none"> 流域内の異なる分野の方や上流、下流域の方の意見をトータル的にどのようにグランドデザインに結び付けていくのか考えなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 流域内において、下流・中流・上流毎の異なる職種の方にグループインタビューを実施し、その意見をグランドデザイン案に反映させている(P2-2,3,4 及び P2-33 から P2-37)。
	<ul style="list-style-type: none"> 水質や土砂流出など流域の様々な問題を解決する方向に導くためには、流域市町村がお互いに支援したり、連携して取り組むような体制づくりが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> グランドデザイン案で「流域が一体となった川づくり(P2-4)」に反映させている。
	<ul style="list-style-type: none"> 釧路川について一般住民にわかりやすく周知させるとともに接近しやすいように、釧路川の利用や自然等の情報を盛り込んだ川の地図があっても良いのではないか。 河川情報全体の管理と情報公開は今後の大事な分野であり、その取組みについて考えていかなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種情報の公開・提供にあたっては、更に促進するとともに、流域住民に判りやすい提供手段等について、今後、検討していく。
	<ul style="list-style-type: none"> 地域資源評価図では流域全てが土砂流出の恐れがあることが明らかであり、グランドデザインの中に、具体的な土砂対策のデザインも描いてもらいたい。 地域資源評価図はグランドデザインを考える上で貴重な材料となるので、どのような情報データに基づき分析したのかを明らかにする必要がある。また、地域の要望や土地利用を重ねて乖離や不足が無いのかを調べなければならない。内容については各市町村で見直して修正するとともに、そこから何を読み取るかが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> グランドデザイン案で「暮らしと自然との共生」の中で「.....安全な生活基盤が求められ.....(P2-3)」に反映させている。今後、左記の意見に配慮して河川整備計画を検討していきたい。 地域資源評価図は流域の基本構造を明らかにした評価項目から構成されており、長期的に見て変化しない特性となっている。使用したデータは一覧に整理した(P2-58)。
	<ul style="list-style-type: none"> 各種関連計画等整理図に流域市町村が考えている取組み情報を載せるべきである。また、流域の将来像について行政としてどう考えているのか議論することも必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 各種関連計画等整理図に流域市町村の取組みを加えた(P2-32)。
	<ul style="list-style-type: none"> 将来ビジョンづくりを行う場合、釧路川流域のトータル的な管理や、めりはりの効いた政策展開についても議論しないと具体性のあるものにはならない。 流域全体について議論していくことがグランドデザインであり、敢えてゾーニングしない方向で考えている。 	<ul style="list-style-type: none"> グランドデザイン案で「流域が一体となった川づくり(P2-4)」に反映させており、今後、左記の意見に配慮して河川整備計画を検討していきたい。